低損失ゼロ屈折率材料の調査 Investigation of Low-loss Zero Index Materials ハーバード大 SEAS, [°]北翔太, Marko Lončar

[°]Shota Kita, Marko Lončar E-mail: skita@seas.harvard.edu

Γ点におけるフォトニックディラックコーン (PDC) に基づくオンチップゼロ屈折率材料 (ZIM) が光通信波長帯において近年実証されてきた^{1),2)}.さらに前回発表では、金属を用いない全誘電 体 (AD: All Dielectric) ZIM の理論・設計ならびにその構造堅牢性を実証した³⁾. しかし本 ADZIM は垂直方向の光閉じ込めを考慮しておらず、放射損失が大きい、したがって本報告ではその欠点 を補うための低損失(LL: Low-loss) ZIM の理論・設計について発表する. 有限要素法によるシミ ュレーション(COMSOL)で検討した LLZIM の構造を Fig.1(a)に示す. 以前のダブルミラー構造 ¹⁾ではSiピラー底部にも金ミラーを設置していたが、それらが主な吸収損失の原因であったため、 今回ではそれを省いた.また下方向への光閉じ込めは上部ミラーで反射した光の位相と下方向に 放射する光の位相とが打ち消しあうことにより実現できる⁴⁾. 位相干渉による光閉じ込めの強弱 および PDC を形成する主要モード(磁界ループを形成するモノポールモードと電界ループを形成 するダイポールモード)のΓ点での共鳴波長の変化は Fig.1(b)のように SU-8 層の厚み h_{SU8}を変化 することで調整できる. モノポールモードは伝搬共鳴モードであり, 上部ミラーの吸収損失を考 えなければ Q 値は h_{sus} に依存せず常に高い値を示す. ここで示している Q 値は吸収損失を考慮し ており, *h*_{SU8} が 1.5 μm 以上でエバネッセントフィールドでの吸収がほぼ無視できる.一方ダイポールモードは *h*_{SU8} によって *Q* 値が変調される.一方,共鳴波長に関してはこちらもダイポールモ ードのみが顕著に変調され、hsusが大きくなるに連れダイポールモードの z 方向のモード次数が 増加する(図中の"Di(...)"のカッコ内の数はモード次数を示す).その結果,両モードの波長間隔 は h_{SU8}によって変調される.これらの特性を踏まえてダイポールモードの Q 値を維持したままと 両モードを縮退させるように格子定数 a と 2r を設計した結果得られた PDC の分散面を Fig.1(c)に 示す. 上部ミラーを吸収のない誘電体ミラーに置き換えることで無損失化が見込めるが,構造は 複雑で作製が困難となる.本 LLZIM を組み込んだヤングの2重スリット実験の概要とその新た な応用についても当日詳細を報告する. 参考文献 1) 北ら, 18p-E16-7, 2014. 2) P. Moitra et al., Nature Photonics 7, 791, 2013. 3) 北ら, 春季応物, 13p-A10-2, 2015. 4) C. W. Hsu et al., Light Sci. & Applications 2, e84, 2013.



Fig. 1 Low-loss zero index material (LLZIM) with top gold mirror. (a) Schematic of the simulated unitcell model in COMSOL. (b) Q factor and modal resonant wavelength at Γ point with changing the thickness of SU-8 layer h_{SU8} (while a = 800 nm, 2r = 400 nm, $h_{Si} = 512$ nm, $h_{Au} = 50$ nm). The insets show their *xy*-plane *Ez* fields around the Si pillar. (c) Optimized photonic Dirac-cone at Γ point with keeping high Q for dipole mode (a = 800 nm, 2r = 392 nm, $h_{Si} = 512$ nm, $h_{SU8} = 920$ nm, $h_{Au} = 100$ nm).